

# 6

## リーディング・マラソン室における異文化間理解の促進取組について ～人を通して異文化を知る&異文化の本を通して人を知る～

岩手県立大学盛岡短期大学部国際文化学科  
准教授 熊本早苗、准教授 吉原秋、講師 ヘイミッシュ・スミス

該当する  
原則

### 原則 10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

## 1. RMRの設立経緯とねらい

岩手県立大学盛岡短期大学部のディプロマ・ポリシーに基づき、「豊かで実践的なコミュニケーション能力」を強化・補強するための自立型外国語学習事業としてリーディング・マラソン室 (Reading Marathon Room, 以下「RMR」という。) を実施している。外国語運用能力向上のためには、学習者自身が主体的に学ぶ環境が必要不可欠である。その学びを支援する学習環境を実現すべく、対象言語を母語とするネイティブ・スピーカーもしくはそれに準じる外国語話者のラーニング・アドバイザー (Learning Advisor, 以下LAと略) を配し、本学教職員とLAが連携しながら実施している。

## 2. 実績と効果

2021年度 (令和3年度) に訪問した学生数の累計は250名 (前年度237名)、本の貸し出し累計数52冊 (前年度27冊)、RMR主催イベントの参加者数合計83名 (前年度102名) であった。Withコロナ時代の課外活動が求められる中、対面活動が制限されても学びを止めないように、Instagramアカウントを開設し、学生の「もっと頑張りたい」という気持ちに寄り添った発信を続けている。

課外活動が可能になった期間には、語学資格取得を目指す学生数が前年度を上回った。2021年度実施分の英語課題・英語関係資格の対策を目的として利用した学生数合計85名 (前年度68名)、韓国語・ハングル関係資格の取得準備を目的として利用した学生数累計108名 (前年度73名) であり、特にTOPIK (韓国語能力試験) の対策レッスンには94名が参加し、上級レベルへの合格者が増加している。

LAと学生が1:1のレッスンを行っていることによって、1人ひとりの成長を、きめ細やかに確認し、各自の異文化間理解モチベーションの維持向上につなげている。LAとの対話そのものが異文化間の相互理解促進の一環となっている。学生から、「LAの先生のように多言語を話せるようになりたい」「思い描く夢に向かって努力し続けたいと思わせてくれた」「分からないことはすぐに質問でき丁寧な解説が受けられるというのもRMR環境のおかげである。」「言語だけではなく異文化の国を知ることでもできた。」と肯定的な声が届いている。今後も原則10に関するRMRの内容充実に尽力したい。



リーディングマラソン